

ほ う き さ ん

2014年 12月

棕本673 存仁寺



永遠の拠り所を
与えて
くださるのが
南無阿弥陀仏の
生活である

「坂東性純」

—「いのちの尊さ」—

「誰か助けて」と、心の中で何度も叫んだ。人のひとり、嫌な時は逃げ出す様に走つて家に帰つた。家に着くと、たまらず涙があふれ、大きな声で泣き叫んだ。呼吸するのも苦しいぐらい泣き続けた。何もかもが嫌で、全てを投げ出したかった。両親のどんな言葉も耳に入つて来ず、「死にたい。放つておいて」と叫んだ。学校や友達とのことで上手くいかず、悩んでいる私に寄り添つて話を聞こうとしてくれていた両親が、私の「死にたい」の一言で顔つきが一瞬にして変わつた。「簡単に死にたいと言うな」すごく怒つた顔だつた。次の休みの日、家族で出かけた。「死にたいなら見せてやる。死ぬつていうことを」と、車は父の運転で広島へ向かつた。私には何の意味があるのか全くわからなかつたが、平和記念資料館で見たものは、戦争の恐ろしさだけでなく、人の命や生き方に触れるもので、真つ黒に焼けこげた三輪車や弁当箱、やけどで肌がただれた痛々しい人の写真などは見ているだけで息が苦しく、見るのも辛くなつた。そんな私に、「この人達は、みんな苦しくても生きたかったんや。これが死ぬつて事や」言葉では何を言つても伝わらないと思つた両親が、私に向けた命の授業だつた。そして、死にたいと言つたのに、死と向き合つて怖くなつて神戸に戻つたのを覚えている。今、あの時の自分と、これからの自分に言いたい。上手くいかない現実をどうにかしたいと思うことを『死にたい』という言葉に置き換えた事を恥ずかしく思え。生きているから喜びも苦しみも感じるんだ。どんなことがあっても生きることに価値があるんだ。与えられた命は、未来ある限り繋ぐんだ。

神戸龍谷高校二年 梶尾望央さん

「誰か助けて」と、心の中で何度も叫んだ。人のひとり、嫌な時は逃げ出す様に走つて家に帰つた。家に着くと、たまらず涙があふれ、大きな声で泣き叫んだ。呼吸するのも苦しいぐらい泣き続けた。何もかもが嫌で、全てを投げ出したかった。両親のどんな言葉も耳に入つて来ず、「死にたい。放つておいて」と叫んだ。学校や友達とのことで上手くいかず、悩んでいる私に寄り添つて話を聞こうとしてくれていた両親が、私の「死にたい」の一言で顔つきが一瞬にして変わつた。「簡単に死にたいと言うな」すごく怒つた顔だつた。次の休みの日、家族で出かけた。「死にたいなら見せてやる。死ぬつていうことを」と、車は父の運転で広島へ向かつた。私には何の意味があるのか全くわからなかつたが、平和記念資料館で見たものは、戦争の恐ろしさだけでなく、人の命や生き方に触れるもので、真つ黒に焼けこげた三輪車や弁当箱、やけどで肌がただれた痛々しい人の写真などは見ているだけで息が苦しく、見るのも辛くなつた。そんな私に、「この人達は、みんな苦しくても生きたかったんや。これが死

ぬつて事や」言葉では何を言つても伝わらないと思つた両親が、私に向けた命の授業だつた。そして、死にたいと言つたのに、死と向き合つて怖くなつて神戸に戻つたのを覚えている。今、あの時の自分と、これから自分の自分に言いたい。上手くいかない現実をどうにかしたいと思うことを『死にたい』という言葉に置き換えた事を恥ずかしく思え。生きているから喜びも苦しみも感じるんだ。どんなことがあっても生きることに価値があるんだ。与えられた命は、未来ある限り繋ぐんだ。

師走に入り、今年一年の締めくくりでもある、親鸞聖人のお仏事報恩講法要を迎える日が来ました。「どんな時でも、報恩講だけはつとめさせてもらわんとなあ」幼い時先人の方がおつしやつていた話が耳に残っています。おくどさん(竈)で火をおこし、煮炊きをしてお斎の接待をされていた方々、夜、火鉢で暖をとりながら片寄せて身命に『御伝鈔』を拝聴しておられたおじいさん、おばあさん。寒い季節ではあるがぬくもりが伝わってきた風景が昨日のように偲ばれます。「行く道、来た道」それぞれの人生を生きる中「出遇えてよかつた」と感受できるご縁を親鸞さまを訪ね、聞かせて頂きましょう。住

「永遠の拠り所を与えてくださるのが
南無阿弥陀仏の生活である」

どの時代であれ、場所であれ、人間は「しあわせ」になることを求め、努力してきましたが、はたして本当の「しあわせ」を得られたかといえば、大いに疑問です。なぜならば、私たちの求める行為そのものが、自己中心的な欲望によってむさぼり続け、足ることを知らない生活をしている限り、「幸」は「めぐみ」ではなく、「むさぼり」となつてしまい、足らぬことに不平不満をこぼすことになつていくのです。さらに、自らの欲望を充足させるために他者を傷つけるだけではなく、気づかぬうちに自分をも傷つけています。「しあわせ」は本来、「仕合わせ」と書いていました。それは、それぞれのいのちの嘗みに相違がありながらも、それぞれの出会いの縁を認め合い、許して育みながら、ともに生きていることを喜ぶことだったのです。それには、凡夫の身勝手な我執の殻が破られる必要があるのです。その我執を破るはたらきこそ、阿弥陀如来の智慧と慈悲であり、「南無阿弥陀仏」の名号の功德なのです。

—〇一四年法語カレンダ—「心に響く言葉」より

12月の行事

- 1日(月) 6時30分 おあさじ
8時30分 おみがき・米かし
- 3日(水) 19時30分 コーラス
- 4日(木) 餅つき
- 5日(金) 盛り物・お斎(とき)準備
- 6日(土) ~8日(月) 報恩講法要
(7日お斎当番上組)
- 16日(火) 6時30分 おあさじ
- 31日(水) 22時 除夜会
- 1月1日(木) 1時 修正会

1月の行事

- 1日(木) 6時30分 おあさじ
- 7日(水) 10時 無量寿会例会新年会
- 8日(木) 10時 コーラス新年の集い
- 16日(金) 6時30分 おあさじ
- 18日(日) 13時 仏教婦人会班長会
- 2月1日(日) 仏教婦人会報恩講法要

12月6日(土) キッズサンガ こども報恩講

午後 4時半集合
おつとめ・キャンドルの集い・クイズなど
参加費 500円 (夕食・記念品など)

教区・鈴鹿組関連

- 12月21日(日) 鈴鹿組第19回門徒推進員養成
連続研修会第3回 常信寺
- 12月23日(火) 鈴鹿組同朋研修会
13時30分 芸濃庁舎
井上泰子さん「きっと笑って会える日を」

1月9日(金)~16日(金) 本山御正忌報恩講です。
お念佛のふるさとへ ご参拝いたしましょう

報恩講法要

12月6日(土)

- 12時 お斎
14時 昼座法要『大師影供作法』
19時 夜座法要『正信偈』
「 shinran-sama 物語」



12月7日(日) 上組汁当番

- 10時 朝座法要『正信偈』・「御文章」
13時30分 昼座法要『宗祖讚仰作法』
コーラス「おかげさま」
「 shinran-sama 」「ふるさと」
19時 夜座法要『初夜礼讚』
「御俗鈔」

12月8日(月)

- 10時 ご満座『無量寿経作法』
雅楽入り
法話 滋賀・称名寺 田中諦康師
2日間お昼はお斎(とき)の接待があります。
真宗門徒として一番大切な仏事ですので、
お誘いあわせご参詣ください。

除夜会

あなたにとってどんな一年でしたでしょうか。

どんな人にであいましたか。

誰に感謝しますか。

年の最後は、除夜の鐘にて。

12月31日(水)



午後10時 おつとめ 『正信偈』

抽選会・カラオケなど

11時45分つき始め

元旦会(修正会)

年の始めは、無量の壽・無量の光。

阿弥陀さまのお徳を讃え、味わいましょう

1月1日(木)

午前1時 おつとめ 『現世利益和讚』